

## イシガレイの大きさは例年並み

### ■全体の平均全長は例年並み

今月採集したイシガレイは、水門付近の個体より河口で採集した個体の方が、わずかながら平均全長が大きかった (Table.1)。河口で採集できた個体数は少なかったが、その中で全長4.5cmの個体が2匹採集されたため、影響は大きい。河口から移動せずそのまま成長した個体であろう。潟湖内でも2匹だけだがイシガレイを採集することができた。これまでの調査と同様、潟湖内のイシガレイは他の場所の個体と比較して大型であった。3・4月のイシガレイは比較的小型であったが、今月の全体の平均全長は3.5cmで、ほぼ例年通りの平均全長となっている (Fig.1)。

	2.5cm	3.0cm	3.5cm	4.0cm	4.5cm	5.0cm	平均(cm)	平均(cm)
潟湖内	0	0	0	1	0	1	4.5	3.5
水門付近	1	3	7	2	0	0	3.4	
河口	0	3	3	0	2	0	3.6	

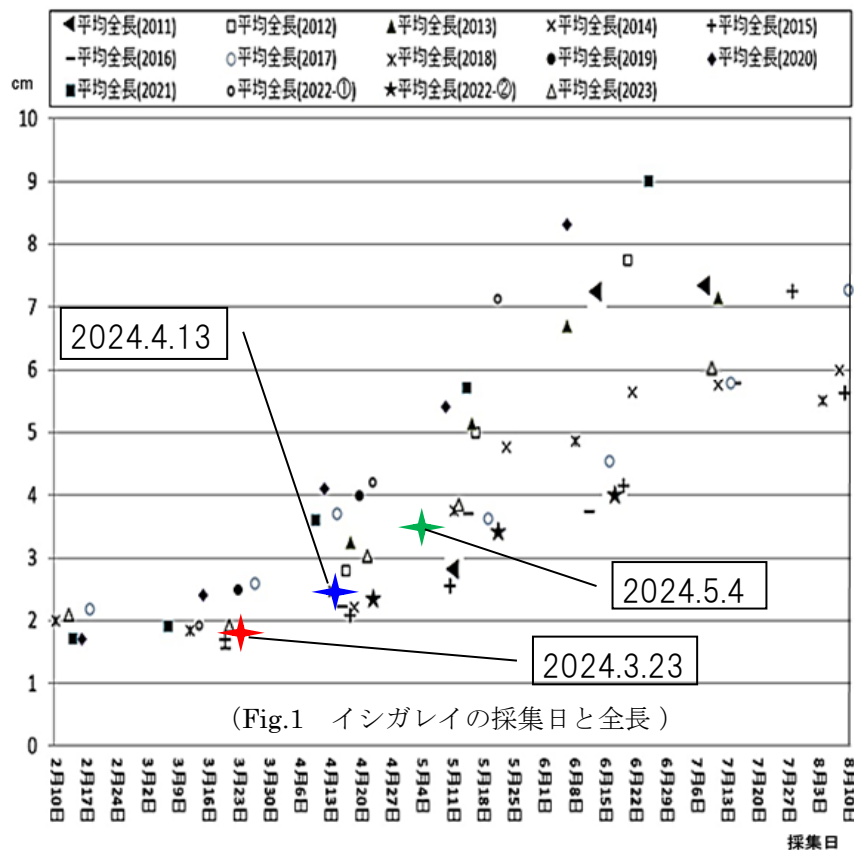
(Table.1 イシガレイの全長と採集数)



(Fig.2 河口で採集した個体)



(Fig.3 水門付近で採集した個体)



(Fig.1 イシガレイの採集日と全長)

### ■ヒモハゼを採集

これまでの調査で、はじめてヒモハゼを採集した (Fig.4)。全長5cm程度になる細長い魚で底質が砂、砂泥の場所に生息する。ニホンスナモグリやアナジャコの仲間の生息孔を生息場や産卵場として利用する。宮城県レッドリスト2024に準絶滅危惧 (NT) として掲載されている。神奈川県立生命の星・地球博物館、瀬能宏氏に同定していただいた。厚く感謝の意を表します。



(Fig.4 ヒモハゼ 全長3.5cm)

(佐藤 賢治)